

薦神社神門の修理と随神像の展示について

担当：歴史博物館 曾我（電話 0979-23-8615）



こもじんじゃしんもん
薦神社神門は元和 8 年（1622）に中津城主・細川忠興によって建てられた建物で、九州における江戸時代初期の代表的存在建造物として、昭和 63 年に国の重要文化財に指定されました。

平成 9 年に解体修理工事を実施して以来、大規模な修理は実施されておらず、現在国庫補助を受けて、経年劣化によるこけら葺き（薄い板材を重ねて屋根を葺く工法）屋根の葺き替えを主とした修理工事を実施しています。令和 2 年 12 月より着手し、令和 4 年 6 月まで工事の予定です。



葺き替えの様子



葺き替え前の腐朽した屋根

神門に祀られる随神像を歴史博物館で特別公開

この工事に伴って、神門内に普段安置されている随神像が歴史博物館へ移座され、令和 4 年 3 月 12 日（土）より特別公開されます。その後 6 月中旬の工事終了まで展示される予定です。

随神（身）とは、寺院における仁王像のように、門番をする神様のことで、薦神社では若者のお姿が阿蘇大神、あそのおおかみ老人のお姿が高良大神と称されています。こうらのおおかみ

高さ 140 c m とほぼ等身大で、椅子に座り、弓矢などの武器を携えたお姿です。残念ながら銘文などは発見されていませんが、神門の造営と同時期の元和 8 年ごろに作られたと考えられています。普段は門の中に向い合せで安置されており、かつ格子越しにしか拝むことはできません。今回の展示では、随神像を間近でご覧いただけます。



随神像 阿蘇大神



随神像 高良大神

神門修理現場の取材などもお受けいたします。遠方より屋根業者が不定期に来ておりますので、工事日と取材日の調整をさせていただきます。また、5月～6月に修理現場の一般公開も予定しておりますので、あらためてご案内いたします。